

2005年1月11日 中京大学図書館発行

ことばの散歩-6-

サンタクロースへの旅

図書館長 安村 仁志

世界でいちばん有名で感動的な社説は、八歳の少女バージニアがニューヨークの新聞『ザ・サン』に“サンタさんは本当にいるの?”と問い合わせたことに、記者フランシス・P・チャーチが答えたものと言われています。人間は見えるものしか信じられなくなっているけれど、人を愛し、赦し、尽くすことができるように、確かにサンタはいるよと語りかけるものでした。1897年のことです。

サンタクロースを表す Santa Claus という語は1773年 "New York Gazette" 紙に初めて登場しました。これはアメリカ製英語で、ニュー・ヨークがかつてニュー・アムステルダム(1624/26 - 1664)と呼ばれていた時代のオランダ系移民の「聖ニコラウス」の呼び名 Sante Klaas(中世オランダ語 Sinter Niklaas から)、或いは Sinterklaas から作られたものだと言います。

では、聖ニコラウスとはどういう人物で、どのように人々の生活に根付いていたのでしょうか。また、聖ニコラウスと現在のサンタクロースがどのように結びつくのでしょうか。聖ニコラウスはキリスト教世界に非常に親しまれた人物で、その名は各国の人名に幅広く受け継がれています。ニコラウス/ニクラウス、スラヴ系のニコライ或いは N が M に変わったミコライ、短縮形のニコラス、ニコラ/ニコル、ニック、クラス、ニルス、禁煙グッズのようなニコレッタなどまで多彩です。

これらはすべてギリシア生まれのニコラオスから派生しています。「ニコラオス」という名は、勝利を意味するニケ(vίκη = nike)と人々を意味するラオス(λαός = laos)から作られた名で、「民衆を勝利へと教え導く者」との期待を込めた名とさえ言われています。某スポーツ・メカ - もうまく名前をつけたものですね。ニコラウスはラテン語の呼び名です。

ニコラオスは271年(または280年)にギリシアのパトラスに生まれ、後にミュラの司教になったといわれます。歴史の記録には記されていないようですが、数々の伝承があります。ジェノヴァの大司教でドミニコ会士ウォラギネが書いた聖人の伝記集『黄金伝説』(人文書院刊、第一巻)から主なものをあげますと、貧しい貴族の三人の娘が、身売りされるところを救った話(破産した没落貴族が隣家にいた。その長女に縁談が持ち上がったが、父親は家計のために身売りさせようとしていた。それを知ったニコラオスは夜中にこっそり、金の詰まった財布を投げ込んだ。それで長女は身売りを逃れた)、荷揚げされた食料を増やして町を飢饉から救った話、ミュラの司教に選ばれた時の話(ミュラの司教が死に、後任を選ぶため多くの司教たちが集まる。夜、

「朝課の時刻に最初に教会にやって来るニコラウスという男を、司教にせよ」との声がした。翌朝いちばん先に教会に来た聖ニコラウスが司教に任ぜられた)などがあります。

これでどうやら「サンタクロース」の原型がキリスト教世界に広く親しまれている聖ニコラウスであることが分かりましたが、ここから新たな疑問が生まれてきます。キリスト教界と一口に言いましても、長い歴史の中でさまざまな立場が生まれ、多様性があるわけですが、「聖人」というものに対する考え方において否定的な立場をとるプロテスタント教会ではどうなるのだろうかという問題です。また、それまでは認められていたキリスト教信仰が政治的変動などで禁じられるようになった場合はどうなるのだろうかという問題もあります。

これらについてあまり図式的なことは申せませんが、一例をあげて見たいと思います。プロテスタント教会においては、まずプレゼントは聖人からではなく、イエス・キリストからもたらされるということで、それまでの12月6日(ニコラオスの祭日)に代わって、12月25日のクリスマスとなりました。プレゼントをくれる人もニコラウスから離れていきました。科学的無神論に立つ社会主義革命に基づき、宗教が否定的に扱われることになったソ連ではどうなったでしょうか。「サンタクロース」がキリスト教の聖人をイメ - ジさせ、且つ人々に親しみを感じさせる存在である以上、当然のことながら好ましいものではなく、むしろ具合の悪い存在とされました。しかし、子供たちに冬の寒い時期に喜びをもたらすという習慣そのものは否定することはできませんでした。そこで、「聖ニコラウス」という名前を払拭し、且つ子供たちにプレゼントなど夢を与える形象は存続させるというかたちで「ヂェット・マロ - ス」(Дед-Мороз)が登場しました。さてどういう意味でしょうか。直訳しますと、「厳寒爺さん」といったところでしょうか。「ヂェット」が「お爺さん」で、「マロ - ス」が「厳寒」なのですが、マロ - スとは発音上そうなるのであって、英語表記にありますようにそのまま読みますと「モローズ」となります。特別の寒さを表します。クリスマスの時期は最も寒い時期でもあり、その寒い時にプレゼントなどしてくれる「暖かい」お爺さんということで命名されたのでしょうか。ところでこの「マロ - ス/モローズ」はロシアではある意味で生命にもかかわる一大事ですので、それを意識して子供の名前につけることがありました。それが今日名字に移り、私たちの日本でもよく目にする菓子メ - カ - のモロゾフ(Морозов = Morozoff)となっています。イスラム教の国々ではどうでしょうか。ヨ - ロッパに近いトルコには、一部に Noel Baba という名でサンタが登場するそうです。ユダヤ教世界はどうでしょう。キリスト教の聖人を受け入れることがない以上、サンタは存在しませんが、12月7日の日没から「ハヌカ(灯りの祝日)」という祭りがあるそうです。異教の支配下にあったユダヤ教が、宗教的にも政治的にも一時期自立を成し遂げたこと(紀元前2世紀)を記念する日です。

こうした意味合いで、各国にはさまざまな「サンタクロース」にあたる人物があります。サンタもクロ - スますね。興味深いところを二、三挙げてみましょう。「キリスト・キント(幼児キリスト サンタクロースと天使をミックスしたような存在。イブに天使の案内で良い子の家を訪れ、プレゼントを置いていきます)」(ドイツ)、「ユ - ル・トムテ(北欧の農業の守り神)」(スウェ - デン)、イギリスの「ファ - ザ - ズ・クリスマス」などです。呼び名の面でも多様で、フランスやスペインでは「ノエル・パパ」(ノエルとはクリスマスを意味する「誕生」の意から)、ドイツでは「ヴァイナフツマン(聖夜 = ドイツ語のクリスマス の人)」、中国語では「聖誕老人」というそうです。

最後に、クリスマスの時期によくチャリティーが行われますが、慈善(憐れみ、助けること/貧しい人や不幸な人をいたわり救済すること = 大辞林)と訳されるこの語は、ラテン語の

caritas(犠牲を払うこと、愛)から生まれましたが、ヒエロニムスによるラテン語訳聖書ウルガータでは、「神の愛」を表すギリシア語アガペーのラテン語訳として多用されたといえます。聖ニコラオスの貧しい人、困った人に対する助けを思い起こさせます。クリスマスの時期に贈り物をするとき、そういった意味合いも思い起こしたいものです。

閉架書庫のススメ

文学部国文学科3年 牧 義之(LSC 学生スタッフ)

「図書館とはいかなる場か」と聞かれたら、あなたはへと答えるでしょう。「静かに勉強出来る場」でしょうか、はたまた「本をただで借りられる場」か。もしや「待ち合わせの場」と答える人もいるかも知れません。

私だったら「未知と感動に出会える場」と答えます。学生にとって図書館とは(特に私は文学をやっている人間なのですが)自分という<世界>を「未知」との発見や、「感動」を通じて広げてくれる本と出会える場所であると思います。

田山花袋(1872~1930)という作家に『東京の三十年』という回想集があります。「花袋文学の成立過程、自然主義文学の盛衰、さらには東京中心に、明治的近代の風物の変遷などが具体的に描き出され、読物としてのおもしろさ以外に大きな資料的価値を持つものとなっている。」(『日本近代文学大事典』より)。明治の文壇状況などを知る上でも興味深い本ですが、その中に「上野の図書館」という章があります。ここから当時の図書館の様子を探ることが出来ます。

「閲覧者は大勢いるけれども、少しでも声を立てると、しつと言われるので、室内は水を打ったように静かで、監視のおりおり静かに通って行くスリッパの音がきこえるばかりであった。」

花袋は書生時代、「一週に二、三度は必ず」図書館に行き、「五銭出して」、「特別閲覧室に」行きました。そこで「終日長く本を読んだり空想に耽ったりした」ようです。ここから今の図書館との違いをいくつか探ることが出来ます。友達と(小声で)おしゃべりしながら本を気ままに探して読める現代と違って、当時(明治10年代~20年代にかけて)は館内に非常に厳かな「雰囲気」が漂っていたことが分かります。恐らく咳をするのも躊躇われたことでしょう。声どころか物音ひとつ立てられません。許される音は足音くらいなもの。これが花袋が過ごした図書館の様子です。

「私は近松、西鶴を其処で読んだ。(中略)トルストイの『戦争と平和』の英訳は、その時分から、図書館にあった。で、私は半分位しかわからなかったけれど、とにかく毎日行ってはそれを読んだ。」

若いときの花袋の文学興味を満たしてくれたのがまさに図書館でした。外国からの新しい風

は、図書館に新しく入った洋書から感じられたのでしょうか。それはまさに花袋にとっては「未知」であり「感動」であったはずです。そして「さまざまの空想やら妄想やら、乃至は小説の構想などに頭を一杯にして」花袋は帰途に着きます。

花袋が過ごした図書館の様子が現代と異なるのと同じく、私たちの図書館への「想い入れ」も随分違うものではありませんか？ 花袋に「僕は図書館を待ち合わせの場所に行っている」なんて言ったら彼は呆れて物も言えないかも知れません。う～む、何だろう。花袋のように胸ドキメカセながら本に向き合えないものか。

そう感じたら、私は真っ先に「書庫利用願」を携えて1号館の閉架書庫に行きます。開架とは違い、あそこには奇妙な「雰囲気」が漂っています。さしずめ、鬱蒼と茂る森の中に入ったかのように…。自分よりも随分昔に生まれた本たちの吐息（あるいはイビキ？）が聞こえてきます…。なんて書くとそれこそ夢想家のようにですが、一度騙されたと思って入ってみてください。きっとあなたもその独特の「雰囲気」は（本好きであろうがなかろうが）感じられる筈です。中には私たちどころか、花袋が生まれる前の本もあります。「パピルス」は意外と近場にあったのです。あなたも少し粋な図書館通(?)になってみませんか？ あなただけの「未知」と「感動」を求めて…。

田山花袋『東京の三十年』引用文は岩波文庫版に拠りました。

本学教員著作の寄贈図書

請求記号	タイトル	出版社	著者	所蔵館
335.5 / Mu62	国際経営学原論 - 現象から実在へ	創成社	ビジネス・イノベーション研究科 村山 元英	LSC
336.8 / N32	財務管理論の基礎 第4版	創成社	経営学部 中垣昇	LSC
374.92 / O56	学校事故の責任法理	法律文化社	法科大学院 奥野久雄	LSC
384.6 / I97	英国レディになる方法	河出書房新社	国際英語学部 岩田託子	LSC TL

* 敬称略

ご寄贈ありがとうございました

ベストリーダー (9月~10月)

【名古屋図書館】閉架書庫は「卒論」や「ゼミ研究」に役立つ資料が豊富です。

(貸出)

Shakespeare survey	930.25 / Sh12
Operations management	509.6 / 069
鏡花全集	918.68 / I99
情報と文献の探索	015.2 / N22
学習心理学	141.33 / U73

(閲覧)

教育心理学研究	P371.4 / Ks
心理学研究	P140 / Sk
心理学評論	P140 / Sh-k
児童心理	P371.45 / Js
國語と國文学	P810 / Kk

【豊田図書館】別冊宝島、現代のエスプリは常時、人気があります。

(貸出)

別冊宝島	P049 / Bt
ハリ・ポッターと不死鳥の騎士団	933.7 / R78
現代のエスプリ	P049 / Ge
資本主義の文化的矛盾	304 / B33
こころの処方箋	159 / Ka93

(閲覧)

心理学評論	P140 / Sh-k
ソフトボールマガジン	P783.78 / Sm
サッカーマガジン	P783.47 / Sm
体育の科学	P780 / Tk
陸上競技マガジン	P782 / Rk

【LSC】人気の英語教材に加え、さまざまな資料が利用されています。

(貸出)

The house by the sea	837.7 / C14 / 13
Little women	837.7 / 093 / 86
Who, Sir? Me, Sir?	837.7 / 093 / 74
上記3タイトルの他にも『Oxford Bookworks library』『Cambridge English readers』等の英語教材シリーズの利用が多数みられました。	
ニュートン別冊 地球大解剖	P405 / Nb / 2002
ナニワ金融道	338.7 / A 53
輪違屋糸里	913.6 / A 81
天使と悪魔	933.7 / B 77

【法学文献センター】最新の情報を調べるには、『判例時報』・『法律時報』が有効です。

(貸出)

刑法講義総論	326.1 / N29
注釈会社法	325.208 / C67 / 6
わかりやすい国連の活動と世界	329.33 / N71
被害者学入門	326.3 / Mo77

(閲覧)

労働判例	P328.6 / Rh
金融・商事判例	P328.1 / Sk
家庭裁判月報	P327.123 / Ks
警察時報	P317 / Kj

新着図書セレクト

味見のための本がある。丸呑みするための本もある。
 そしてごく少数の本だけが、かみしめ、消化するためにある。
 By フランシス・ベーコン

* 10～11月の新着図書の中から、お薦めの本をご紹介します *



『不完壁主義』(斎藤茂太著・家の光協会)

請求記号：493.764 / Sa 25, 所蔵：TL

* * * * *

肩肘張って、無理して頑張るだけがすべてではない。
 これからの時代にあった、ほどよく肩の力を抜いた
 「いい加減」のススメです。

『原稿用紙 10 枚を書く力』(齋藤孝著・大和書房)

請求記号：816 / Sa 25, 所蔵：LSC

* * * * *

「引用力」「レジュメ力」「構築力」「立ち位置」受験、就職、仕事
 に役立つ万能の文章の書き方を伝授。



請求記号	タイトル・著者・出版社	所蔵
002 / Ka 93	『学ぶ力』(河合隼雄 [ほか] 著・岩波書店) 学ぶことはこんなにも楽しくて、自由だ。	L S C T L
049 / Z 6	『図解雑学 心と体に効くお茶の科学』 (小國伊太郎監修・ナツメ社)	L S C T L
080 / A 17 / 101	『就職の基本がわかる。』(AERA Mook・朝日新聞社) 基礎知識と常識・マナー、自分を高める方法を満載。	L S C
080 / Ko 19 / 1738	『大人のための文章教室』(清水義範著・講談社) いまずく使える裏ワザ表ワザ!	L S C
140 / I 35	『生活から問う現代心理学』(生月誠著・ナカニシヤ出版) 認知から臨床まで、生活に役立つ生きた心理学。	T L
140.7 / Mu 93	『質的心理学』(無藤隆 [ほか] 編・新曜社)	L S C
141.18 / Ma 63	『天才はなぜ生まれるか』(正高信男著・筑摩書房)	T L
210.6 / W 46	『年表で読む明解! 日本近現代史』(渡部昇一著・海竜社) 日本人として知っておきたい歴史の真実。	L S C
289.1 / Sh 85	『白洲次郎の流儀』(白洲次郎 [ほか] 著・新潮社)	L S C

請求記号	タイトル・著者・出版社	所蔵
324.6 / Sa 93	『家族法と戸籍をめぐる若干の問題』 (澤田省三著・テイハン)	LL LSC
332.107 / Mi 97	『日本経済』(水谷研治著・ダイヤモンド社)	LSC
333.6 / I 89	『世界地図で読むグローバル経済』 (伊藤正直 [ほか] 著・旬報社)	LSC
361.5 / N 79	『木を見る西洋人 森を見る東洋人』 (リチャード・E. ニスベット著・ダイヤモンド社) なぜ世界観がこんなにも違うのか?	TL
371.47 / N 46	『自己理解のための青年心理学』 (中里至正, 松井洋, 中村真編著・八千代出版)	TL
492.79 / Ka 84	『骨盤にきく』(片山洋次郎著・文芸春秋) 気持ちよく眠り、集中力を高める整体入門。	LSC
493.937 / Mo 45	『IT に殺される子どもたち』(森昭雄著・講談社) インターネット、携帯電話、コンピュータゲームは脳の働きをこんなに低下させる!	LSC
502.1 / Ma 27	『技術者たちの敗戦』(前間孝則著・草思社) 戦後、廃墟の中から立ち上がり、技術大国をつくる。 感動の物語。	LSC
657 / Sh 75	『木の教え』(塩野米松著・草思社) 木を生かす、木の知恵、木と生きる。	LSC
675 / Ka 84	『マーケティングの基礎知識』(片山又一郎著・PHP 研究所) 見失いがちなマーケティングの本質を解説する。	LSC
768.1 / Ko 49	『紀州徳川家伝来楽器コレクション』 (国立歴史民俗博物館 [編]・国立歴史民俗博物館)	NL
780.21 / R 32	『不器用な王者たち』(李春成著・ぴあ) 頑固、偏屈、愚直、一匹狼...個性派アスリート達を追った 骨太なノンフィクション。	TL
810.4 / I 57	『金田一先生の日本語 × 辞典』(井上明美編・学習研究社) 言葉で恥をかかないために!	TL
837.8 / O 42	『ネイティブの口ぐせ英語』(岡本直樹著・中経出版) 「ネイティブの口ぐせ」のような表現を漫画や愉快的対話 文を中心に紹介している。	LSC
910.268 / Sa 29	『森鷗外論集 彼より始まる』(酒井敏, 原國人編・新典社) 広やかで自由、斬新な論文集。	LSC
914.6 / F 68	『家族を「する」家』(藤原智美著・講談社)	TL
950.2 / Ka 76	『文学的パリガイド』(鹿島茂著・日本放送出版協会) 知っているようで知らなかった新しいパリが見つかる。	LSC
953.7 / P 28	『茶色の朝』(フランク・パヴロフ著・大月書店)	LSC

所蔵の[NL]は名古屋図書館、[LSC]はライブラリーサービスセンター
[LL]は法学文献センター、[TL]は豊田図書館です。



図書館カレンダー

1 月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

3 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

4 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

■ は休館日です。

入試 1/15, 2/1 ~ 2/4, 2/7 ~ 2/8, 3/7

但し、1月15日 豊田図書館は開館

入学式 4/1

○ の開館時間 平日 9:00 ~ 17:00

土曜日 9:00 ~ 12:30

図書館システム入替えのため臨時休館のお願い

図書館新システムの入替えの為、図書館全館で臨時休館およびサービス制限をいたします。利用者のみならずには多大なご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

- 1、閲覧業務のマニュアル作業による開館 : 2月28日(月)~3月5日(土)
この期間は、開館いたしますが、蔵書検索などPC端末の利用は出来ません。
直接書庫に入れない利用者の方は開架図書と閲覧室のみのご利用となります。また、貸出業務もマニュアル方式となります。
- 2、完全臨時休館 : 3月8日(火)~3月26日(土)
この期間、資料の返却以外は停止とさせていただきます。
2月28日(月)~3月26日(土)は、図書館システム、ホームページともに完全に停止します。そのため、図書館ホームページを通じた蔵書検索、電子ジャーナルなどの外部データベース検索、インターネットなどのサービスは、学内、学外からも利用できません。
この期間、他大学との相互貸借及び名古屋・豊田間の資料取寄せも停止となります。
資料返却については、休館・閉館期間中、名古屋学舎のLSC(センタービル3階)ブックリターンと豊田図書館入口のブックポストをご利用ください。